

石狩地区 新規就農者紹介



2023年に訪問し、今回2度目の訪問です。現在の状況をお聞きしました。※就農の経緯等については以前の記事に掲載しています。

【就農時を振り返って】

当初、農業は世襲制となっており、実家が農家ではない人は就農できないと思っていました。しかし、新規参入でも農業をすることができると知り、子育てが落ち着いたタイミングで就農を決意しました。



【収穫を待つミニトマト】

以前、飲食業界で働いていたこともあり、6次産業化にも興味がありました。そのため、加工しやすい作物の栽培を考えていたこと、トマトが大好きなことからミニトマトの栽培を決めました。

北広島市の農家さんから石狩市の農家さんを紹介してもらい、2年間研修した後に就農しました。

石狩みのりファーム（石狩市） 2025年10月取材

佐々木 洋実 さん

就農年：2021年4月

経営形態：施設園芸

作物：ミニトマト、ブロッコリー、とうもろこし

「石狩みのりファーム」のInstagramはこちら→



【営農について】

148aのほ場にビニールハウスを14棟建てています。ビニールハウスは業者に委託し建ててもらいました。

就農時は、ビニールハウス6棟とトラクター1台を中古で購入し営農を始めました。現在は、13棟でミニトマトを栽培し、1棟は連作障害を避けるために春先にはブロッコリーを、その後はとうもろこしを栽培するようにしています。

主力作物のミニトマトは6種類栽培しており、「ピンクスパークリング」や「レッドアイ」といったカクテル名の愛称を付けています。メインとなる品種のミニトマトは農協へ出荷し、それ以外の品種は自分で選果しています。

就農時より加工品の展開を考えていたことから、規格外のトマトを有効活用して「農家のアイスGELATOMA（ジェラトマ）」を2022年に商品開発しました。開発したジェラートと農協出荷外のミニトマトは石狩市のふるさと納税の返礼品となっています。現在「農家のアイスGELATOMA」は、恵庭市内の業者に製造を委託しています。



【ミニトマトを栽培するビニールハウスとミニトマト】

【就農して感じたこと、苦労したこと】

自由度が高い仕事だと感じました。作物の栽培のみではなく、加工にも取り組めるので、自分のやりたいことができる仕事です。

外国情勢の影響により、ビニールハウスの価格上昇には苦労しました。

就農時に活用した青年等就農資金については、2023年から返済を始めました。返済が始まって経営には影響がない状況ですが、所得税や市民税が高いことは負担に感じています。

【工夫している取組】

地中の畑地かんがいから用水を引いており、ウルトラファインバブル発生装置を通して散水しています。ウルトラファインバブルを利用することにより、水中の酸素濃度が高くなり成長促進や収量増加、品質向上が期待できます。

GAP*指導員の資格を取りました。ほ場のGAP認証は今後取得していく予定ですが、仕組みを理解してから取り組みたいと考え、まずは指導員の資格を取得しました。GAP指導員の資格は、研修と試験で取得ができます。

GAP*…Good Agricultural Practicesの頭文字。農業生産の各工程の実施、記録、点検、評価を行うことによる持続的な改善活動。食品の安全性向上、環境保全、労働安全の確保などに資するとともに、農業経営の改善や効率化につながる。



【用水をビニールハウスへ送る設備】



【ウルトラファインバブル発生装置】

【地域との関わり合い】

農事組合や町内会、地域の草刈りなどのイベントには全て参加し、地域の方々と交流を深めています。また、農協の総代も務めており、組合員との関わりを通して地域振興に貢献できていることにやりがいを感じています。

【オフタイムの過ごし方】

農繁期は休みはありません。農家は休みがなく大変と言いますが、仕事（労働）と捉えていないため、休みがなくても苦ではありません。雨の日でも休みにはせずに、ほ場や作物の様子を見に来ますが、時間の調整ができるので自分のペースで取り組んでいます。

12月～2月の3か月間が農作業をしていない期間となります。冬季に入ると、積雪に備えてビニールハウスのビニールを外したり、除雪をしています。また、青色申告の作成をしたり、中学校や高校、新規就農を考えている方に向けての講演などを行っています。

【今後の展望】

冬季は、石狩産の野菜等を具材に使用した「農家のあげパン（マルゲリータあげパン）」をJAさっぽろが運営する直売所「とれのさと」で調理、販売しています。去年は準備した1,000個を完売することができ、今年は社員を1人増員し専任担当を配置することで、より力を入れて取り組んでいきたいです。

【就農を目指している方へアドバイス】

農業は体を動かす仕事なので、肉体的な疲労から悩み事について考え込む前に寝てしまいます。眠ることで気持ちがリセットされるので、ストレスを感じにくいです。

自然相手になるので、農作物は天候の影響を受けてしまいます。対策はしますが自然にはかなわないので、受け入れることも大切だと思います。

石狩地区 新規就農者紹介



【就農のきっかけ】

専門学校の講師や飲食業で働いていましたが、子供が小学生になったタイミングで転職を決意。「自分で経営したい」「長く働きたい」「ものづくりをしたい」との希望に合致したことから、就農を決めました。生まれ育った石狩市の農業総合支援センターで2年間ミニトマトに特化した農作業や農業簿記などを学び、第三者継承を目指して就農しました。

【就農して感じたこと】

先輩農家のアドバイスや農業総合支援センターの支援など多くの方々のサポートにより営農をスタートすることができ、大変感謝しています。

石狩みのりファーム(石狩市)

2023年6月取材

佐々木 洋実さん

就農年:2021年4月

作物:ミニトマト、ブロッコリー

「石狩みのりファーム」Instagramはこちら→



【頑張っていること】

廃棄を減らすため、6次産業化に挑戦

研修時にミニトマトの実割れが発生し、大量の廃棄が出たことから、加工品に生かすことはできないかを考え前職の経験から2022年6月にジェラートを開発。

石狩市のふるさと納税の返礼品に採用されています。

【ほ場風景】



(ハウス内のミニトマト)



(ハウス内のブロッコリー)



(ジェラートの説明をする佐々木さん)

【活用した事業】

- ・農業次世代人材投資資金
- ・青年等就農資金